

ISM(IT Security Manager) CloudOne Ver.4.0i - サーバ構築マニュアル - 正誤表

2012年01月18日 クオリティソフト株式会社

マニュアルの内容に追加・変更事項があります。

手順の追加については、次の表をご確認ください。

ページ	見出し	説明
74	システムのバージョンアップ	<p>手順15として追加してください。</p> <p>① NFSサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>② /varディレクトリ以下に、次のディレクトリを作成します。 /var/quality/ismc/ClientLog</p> <p>③ /etc/exportsファイルをテキストエディタで開いて、共有設定の内容を編集します。</p> <p>“共有ディレクトリパス名 共有許可するアプリケーションサーバのIPアドレス”の順に記載してください。</p> <p>ここでは、次の場合を例に設定します。複数のサーバを指定する場合は、ディレクトリとIPアドレスの間に半角スペースが必要です。</p> <p>マスターアプリケーションサーバPCのIPアドレス：192.168.0.10 アプリケーションサーバPC1のIPアドレス：192.168.0.11</p> <p>・SUSE Linux 11 SP1の場合 /var/quality/ismc/ClientLog 192.168.0.10(rw,no_root_squash,sync,no_subtree_check) 192.168.0.11(rw,no_root_squash,sync,no_subtree_check)</p> <p>・SUSE Linux 10 SP4の場合 /var/quality/ismc/ClientLog 192.168.0.10(rw,no_root_squash,sync) 192.168.0.11(rw,no_root_squash,sync)</p> <p>④ 次のコマンドを実行して、共有設定をOSに反映します。 exportfs -ra</p> <p>⑤ マスターアプリケーションサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>⑥ /etc/fstabファイルをテキストエディタで開いて、ファイルの最後に定義を追記します。</p> <p>ここでは、次の場合を例に設定します。</p> <p>NFSサーバPCのIPアドレス：192.168.0.1 192.168.0.1:/var/quality/ismc/ClientLog /var/quality/ismc/ClientLog nfs rw,hard,intr 0 0</p> <p>⑦ アプリケーションサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>⑧ /etc/fstabファイルをテキストエディタで開いて、ファイルの最後に定義を追記します。</p> <p>ここでは、次の場合を例に設定します。</p> <p>NFSサーバPCのIPアドレス：192.168.0.1 192.168.0.1:/var/quality/ismc/ClientLog /var/quality/ismc/ClientLog nfs rw,hard,intr 0 0</p>

ページ	見出し	説明
139	システムのバージョンアップ	<p>手順15として追加してください。</p> <p>① NFSサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>② /varディレクトリ以下に、次のディレクトリを作成します。 /var/quality/ismc/ClientLog</p> <p>③ /etc/exportsファイルをテキストエディタで開いて、共有設定の内容を編集します。 “共有ディレクトリパス名 共有許可するアプリケーションサーバのIPアドレス”の順に記載してください。 ここでは、次の場合を例に設定します。複数のサーバを指定する場合は、ディレクトリとIPアドレスの間に半角スペースが必要です。 マスターアプリケーションサーバPCのIPアドレス：192.168.0.10 アプリケーションサーバPC1のIPアドレス：192.168.0.11 /var/quality/ismc/ClientLog 192.168.0.10(rw,no_root_squash,sync) 192.168.0.11(rw,no_root_squash,sync)</p> <p>④ 次のコマンドを実行して、共有設定をOSに反映します。 exportfs -ra</p> <p>⑤ マスターアプリケーションサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>⑥ /etc/fstabファイルをテキストエディタで開いて、ファイルの最後に定義を追記します。 ここでは、次の場合を例に設定します。 NFSサーバPCのIPアドレス：192.168.0.1 192.168.0.1:/var/quality/ismc/ClientLog /var/quality/ismc/ClientLog nfs rw,hard,intr 0 0</p> <p>⑦ アプリケーションサーバPCに、rootユーザでログインします。</p> <p>⑧ /etc/fstabファイルをテキストエディタで開いて、ファイルの最後に定義を追記します。 ここでは、次の場合を例に設定します。 NFSサーバPCのIPアドレス：192.168.0.1 192.168.0.1:/var/quality/ismc/ClientLog /var/quality/ismc/ClientLog nfs rw,hard,intr 0 0</p>

SUSE LinuxのRPMファイル名については、以下の表をご確認ください。

ページ	見出し	説明
24	Apache2.2のインストール	RPMファイル名を以下のように読み換えてください。
33		・SUSE Linux 11 SP1の場合
46		db43-4.3.29-18.i586.rpm
53		libapr1-1.4.2-20.2.i586.rpm
61		libapr-util1-1.3.9-15.2.i586.rpm apache2-utils-2.2.20-38.2.i586.rpm apache2-2.2.20-38.2.i586.rpm apache2-worker-2.2.20-38.2.i586.rpm
176	関連プログラムのアンインストール	<p>・SUSE Linux 10 SP4の場合</p> <p>db43-4.3.29-18.i586.rpm libapr1-1.4.5-21.1.i586.rpm libapr-util1-1.3.12-21.3.i586.rpm apache2-utils-2.2.20-38.2.i586.rpm apache2-2.2.20-38.2.i586.rpm apache2-worker-2.2.20-38.2.i586.rpm</p>

Red Hat LinuxのRPMファイル名については、以下の表をご確認ください。

ページ	見出し	説明
84	Apache2.2のインストール	RPMファイル名を以下のように読み換えてください。
94		・32bitOSの場合
110		apr-1.2.7-11.el5_6.5.i386.rpm
118		postgresql-libs-8.1.21-1.el5_5.1.i386.rpm
126		apr-util-1.2.7-11.el5_5.2.i386.rpm httpd-2.2.3-45.el5_6.1.i386.rpm httpd-manual-2.2.3-45.el5_6.1.i386.rpm distcache-1.4.5-14.1.i386.rpm
179	関連プログラムのアンインストール	mod_ssl-2.2.3-45.el5_6.1.i386.rpm